

経営比較分析表（平成30年度決算）

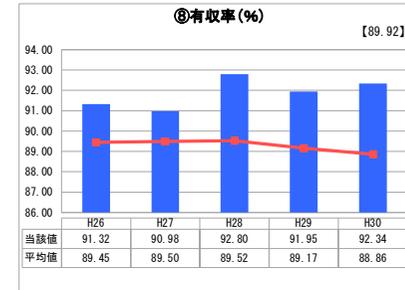
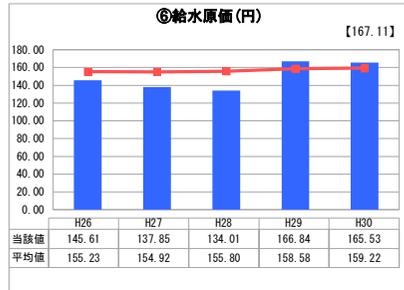
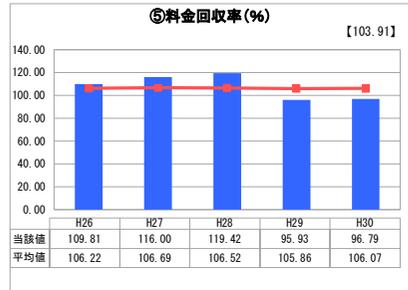
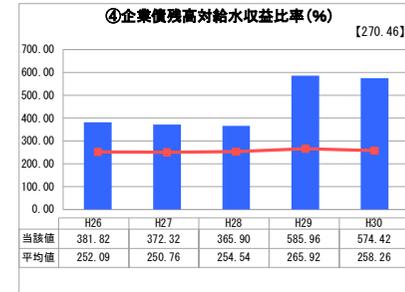
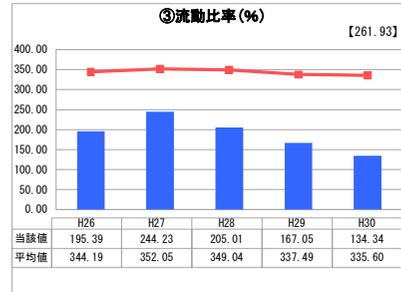
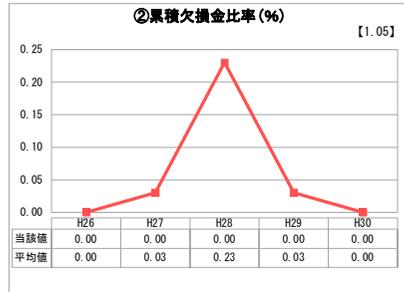
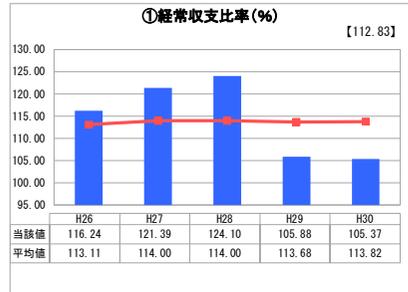
鳥根県 出雲市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	61.24	99.01	2,896	

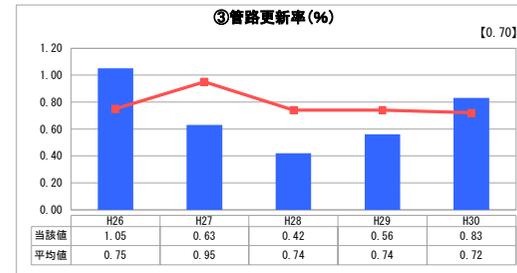
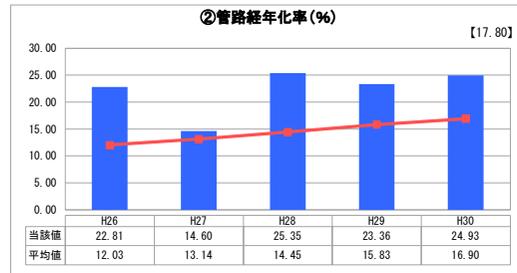
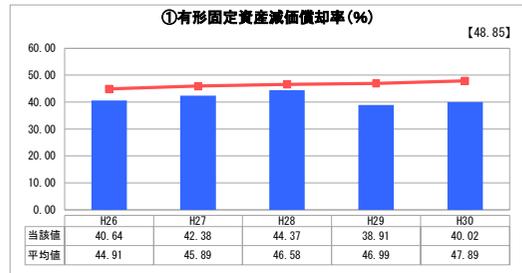
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
175,790	624.36	281.55
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
144,407	236.48	610.65

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率 収益及び費用いずれも減少したが、収益の減少に比べ、費用の減少が少なかったため、前年度より低くなり、類似団体を下回っている。
- ② 累積欠損金比率 欠損金がないため表示されない。
- ③ 流動比率 一般会計繰入金等の未収金の減による流動資産の減少、工事代金、企業債償還金等の未払金の増による流動負債の増加に伴い、前年度より低くなり、類似団体を下回っている。
- ④ 企業債残高対給水収益比率 企業債残高及び給水収益いずれも減少したが、企業債残高の減少に比べ、給水収益の減少が少なかったため、前年度より低くなったが、類似団体を上回っている。
- ⑤ 料金回収率 供給単価は横ばいであったが、給水原価が減少したため、前年度より高くなったが、類似団体を下回っている。
- ⑥ 給水原価 有収水量及び費用いずれも減少したが、費用の減少に比べ、有収水量の減少が少なかったため、前年度より低くなったが、類似団体を上回っている。
- ⑦ 施設利用率 配水量の減少により前年度より低下したが、類似団体を上回っている。
- ⑧ 有収率 計画的な漏水調査の実施や老朽管の更新により漏水量が減少したため、前年度より向上し、類似団体を上回っている。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率 償却対象資産の帳簿原価、減価償却累計額ともに増加したが、帳簿原価に比べ、減価償却累計額の増加が多かったため、前年度より高くなったが、類似団体を下回っている。
- ② 管路経年比率 計画的に管路更新を進めているが、法定耐用年数を超過した管路延長が増えたため、前年度より高くなり、類似団体を上回っている。
- ③ 管路更新率 総管路延長のうち更新した管路延長の割合が上がったため、前年度より高くなり、類似団体を上回っている。

全体総括

平成30年度は、ライフスタイルの変化や節水型機器の普及により使用水量が減り、それに伴い料金収入も減少する一方、水道施設の更新や耐震化の推進のための支出は増加する状況にある。

経営状況については、前年度と同様の比率となったが、類似団体に比べ、経常収支比率や料金回収率が低く、企業債残高対給水収益比率も高くなっている。

老朽化の状況については、類似団体に比べ、管路更新率は高くなったが、管路経年比率も高くなり、今後も管路の更新需要が一層増える見込みである。

このような厳しい経営状況の中、令和2年度から水道料金を改定し、収入を確保することで経営の安定化を図り、「出雲市水道事業ビジョン」に基づいた計画的な施設の更新と耐震化の取組を推進することとしている。